

【記載例】

調停事項の価額 121,025 円
ちょう用印紙額 1,000 円
予納郵便切手の額 2,600 円

この各欄への記載方法は、裁判所にお尋ねください。

調停：過払金返還
□については、レ印を付したもの)

受付印

申立書は、裁判所用と相手方用として、2部を提出してください。

(不当利得(過払金)返還)

調 停 申 立 書

東京簡易裁判所 御 中

令和 〇〇 年 〇〇 月 〇〇 日

申立書を作成した日又は裁判所へ提出する日を書いてください。

申立人の住所・氏名・電話番号等

郵便番号 〒 〇〇〇 - 〇〇〇〇

住 所 東京都墨田区〇〇4丁目〇〇番〇〇 〇〇アパート〇〇号室

氏 名 墨 田 太 郎 印

正本、副本ともに、あなたの認印(スタンプ式は不可。)を押してください。申立人が会社である場合は代表者の印を押印します。

送達場所 上記住所地 次のとおり

東京都千代田区〇〇2丁目〇〇番〇〇 〇〇マンション〇〇〇〇号室

「送達場所」とは、裁判所からの郵便物を受け取る場所を指します。住所以外の場所で受け取ることを希望する場合は、「次のとおり」にチェックし、その場所を記載してください。

電 話 〇〇 - 〇〇〇〇 - 〇〇〇〇

ファクシミリ 〇〇 - 〇〇〇〇 - 〇〇〇〇

あなたへの連絡先電話番号、ファクシミリ番号を書いてください。

相手方の住所・法人名・代表者名

郵便番号 〒 〇〇〇 - 〇〇〇〇

住 所 東京都千代田区〇〇3丁目〇〇番〇〇

相手方の住所、氏名を書いてください。

法人名 株式会社 〇 〇 〇 〇

(相手方が会社であるときは、履歴事項全部証明書等を見て、本店所在地、会社名、代表者の氏名を書いてください。)

代表者名 代表者代表取締役 〇 〇 〇 〇

申立書には、連続するページ数を書いてください。

申立の趣旨	
相手方は、申立人に対し、	
金	12万1668円
<input checked="" type="checkbox"/> 及び	<input type="checkbox"/> 上記金員 <input checked="" type="checkbox"/> 上記金員の内金 12万1025円
に対する	
<input type="checkbox"/> 令和 <input checked="" type="checkbox"/> 平成 ○○年2月27日から支払済みまで年5パーセントの割合	
による金員	
を支払うよう調停を求める。	

過払金額を書いてください。(利息の支払いを求めるときは、別紙計算書上で明らかになっている金額を含めず。)

将来の利息まで支払いを求めるときは、「レ」を付し、利息の始期を記載します。この金額は、別紙計算書の「残元金」になります。

紛争の要点	
1 金銭消費貸借契約	
申立人は、相手方から、次の約定で別紙計算書記載のとおり借り受けた。	
(1) 利息	年 29.2 パーセント
(2) 損害金	年 29.2 パーセント
(3) 支払方法	毎月 末日限り金 ○○, ○○○ 円 以上
(4) その他	
毎月の返済額は、返済時借入残元本の30分の1以上の額とする。	
2 返済	
申立人は、相手方に対し、別紙計算書記載のとおり、前記借入金の利息及び元金として弁済した。	

借入れをしたときの契約内容等を書いてください。

3 利息制限法の制限利率による充当計算

(1) 過払金元金

前記弁済金の内、利息制限法の制限利率による利息を超過して支払った部分を、別紙計算書のとおり順次元本に充当した結果、金 12 万 1025 円が過払いとなっている。

(2) 利息

請求しない。

請求する。

相手方は、貸金業を営む者であり、利息制限法を超える利息は残元金に充当され、残元金が完済になった後は過払金として申立人に返還すべきであることを認識して、申立人から弁済を受けてきたもので、悪意の受益者である。

起算日 令和 平成〇〇年2月27日から

4 よって、申立の趣旨記載のとおり調停を求める。

添付書類

履歴事項全部証明書 金銭消費貸借契約書 取引履歴書

別紙計算書の過払金元金額を書いてください。

過払金額に利息を付して支払いを求めるのか否かを選択します。いずれかに「レ」を付してください。

申立書の添付資料を記載します。例示されている書面(証拠書類等)があれば該当の□にチェックしてください。例示がない場合は、空欄の□にチェックして、その書類の名称を記載してください。

* 証拠書類となる金銭消費貸借契約書、取引履歴書などがありましたら、その写しを添付してください。